

＜国際言語文化学部英語英文学科＞（認定課程：中一種免（英語））

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「教育原理」を履修し、教育の概念、思想、歴史などを学び、教育とは何かについての基礎的、体系的な理解を深める。全学共通・教養教育科目の履修を通して大学教育を理解し、「基礎演習Ⅰ」を通してスタディ・スキルの基礎を習得、理解し大学の学びに活用する。これらによって教員の基礎となる基盤を形成する。また、専門教育科目の履修を通して、中学校外国語科（英語）の教育に必要な内容の専門性を高める。
	後期	学科独自の「基礎演習Ⅱ」を通してスタディ・スキルの基礎を習得、理解し大学の学びに活用する。これらによって教員の基礎となる基盤を形成する。また、英語、英文学の専門科目を履修し中学校外国語科（英語）の教育に必要な内容の専門性を高める。
2年次	前期	①「教職論」、「教育心理学」、「教育課程論」を配置し、教職の意義、教員の役割、生徒の心身の発達と理解、教育課程やその歴史的変遷について理解し、教師となる理論的基盤を多角的かつ段階的に学習する。 ②英語の専門科目を履修し、教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。 ③「英語科教育法Ⅰ」の履修を通して、英語指導についての学際的な理論と実践内容を理解し、レジュメに「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という演習を通して、「表現」「情報処理」「伝達」についてのスキルと、英語科の指導法について相互にディスカッションし考察理解する。
	後期	①「教育社会学」、「教育相談の理論及び方法」を履修し、現代社会における様々な教育問題、および学校カウンセラーとの連携の在り方についての理解を深め、教育問題に対応するための基礎的スキルを習得する。 ②英語の専門科目を履修し、教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。 ③「英語科教育法Ⅱ」の履修を通して、英語指導についての学際的な理論と実践内容を理解し、レジュメに「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という演習を通して、「表現」「情報処理」「伝達」についてのスキルと、英語科の指導法について相互にディスカッションし、さらに考察理解する。
3年次	前期	①「英語英文学演習」を履修し、文献を「検索する」「まとめる」「発表する」などの基礎的スキルを習得するとともに、英語の教員に必要な英語学、英文学について学ぶ。 ②「生徒指導・進路指導の理論及び方法」を履修し生徒指導の意義、課題を理解するとともに諸問題への対応と方法の技術を身に付ける。 ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。 ④「英語科教育法Ⅲ」を履修し、授業計画の仕方、学習指導案の作成方法、教材の作成方法について体験的に理解し、模擬授業を実践し、相互に形成的な評価を実践し、次の指導実践に活かす。
	後期	①「道徳の指導法」を履修し、教育課程における道徳の位置づけ、道徳教育の方法を学ぶとともに、「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」の履修により、特別活動の意義を理解し、具体的な指導の方法を身に付ける。 ②介護等体験を通して、支援の必要性と基礎的技術およびコミュニケーションスキルを身につける。 ③専門科目の履修によって教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。 ④「英語科教育法Ⅳ」を履修し、学習指導の方法、評価の方法について体験的に理解し、模擬授業を実践し、相互に形成的な評価を実践し、次の指導実践に活かす。 ⑤英語英文学特論の中で行われる卒論作成の為に研究を通して、英語、英文学、英語教育、コミュニケーション学に関連する関心を高め、必要な知識や技術を習得し英語科の教員になる為に活用する。
4年次	前期	①「教育実習事前事後指導」で2年次、3年次で習得したまとめを行う。 ②教育実習では、実際の教育現場に身を置き、学校経営、教育の実態を学校全体の活動を体験するとともに、教育現場の教諭から指導を受け、より実践的に課題に取り組むことができるようになる。生徒とのコミュニケーション等について理解するとともに「指導法」についての学びを深める。 ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。
	後期	①これまでの学習のまとめを「教職実践演習」で行い、卒業後すぐに実践的教員となるよう学習を進める。 ②「教育実習事前事後指導」で、教育実習の振り返りを行い、教育者としての資質向上につとめる。「自らの課題の解決方法を見出し、そのために必要な知識を自ら修得できるようにする」。 ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め中学校教員としての知識の習得に努める。 ④卒業研究を通し卒業で論文を作成することにより、「自らの課題の解決方法を見出し、そのために必要な知識を自ら修得できるようにする」ことで中学教員になるという自己実現に向けて、その資質と専門性を高める。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

<国際言語文化学部英語英文学科> (認定課程: 高一種免 (英語))

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「教育原理」を履修し、教育の概念、思想、歴史などを学び、教育とは何かについての基礎的、体系的な理解を深める。全学共通・教養教育科目の履修を通して大学教育を理解し、基礎演習Ⅰを通してスタディ・スキルの基礎を習得、理解し大学の学びに活用する。これらによって教員の基礎となる基盤を形成する。また、専門教育科目の履修を通して、高等学校外国語科(英語)の教育に必要な内容の専門性を高める。
	後期	学科独自の基礎演習Ⅱを通してスタディ・スキルの基礎を習得、理解し大学の学びに活用する。これらによって教員の基礎となる基盤を形成する。また、英語、英文学の専門科目を履修し高等学校外国語科(英語)の教育に必要な内容の専門性を高める。
2年次	前期	①「教職論」、「教育心理学」、「教育課程論」を配置し、教職の意義、教員の役割、生徒の心身の発達と理解、教育課程やその歴史的変遷について理解し、教師となる理論的基盤を多角的かつ段階的に学習する。 ②英語の専門科目を履修し、教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。 ③「英語科教育法Ⅰ」の履修を通して、英語指導についての学際的な理論と実践内容を理解し、レジュメに「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という演習を通して、「表現」「情報処理」「伝達」についてのスキルと、英語科の指導法について相互にディスカッションし考察理解する。
	後期	①「教育社会学」、「教育相談の理論及び方法」を履修し、現代社会における様々な教育問題、および学校カウンセラーとの連携の在り方についての理解を深め、教育問題に対応するための基礎的スキルを習得する。 ②英語の専門科目を履修し、教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。 ③「英語科教育法Ⅱ」の履修を通して、英語指導についての学際的な理論と実践内容を理解し、レジュメに「まとめる」「調べる」「プレゼンする」という演習を通して、「表現」「情報処理」「伝達」についてのスキルと、英語科の指導法について相互にディスカッションし、さらに考察理解する。
3年次	前期	①「英語英文学演習」を履修し、文献を「検索する」「まとめる」「発表する」などの基礎的スキルを習得するとともに、英語の教員に必要な英語学、英文学について学ぶ。 ②「生徒指導・進路指導の理論及び方法」を履修し生徒指導の意義、課題を理解するとともに諸問題への対応と方法の技術を身に付ける ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。 ④「英語科教育法Ⅲ」を履修し、授業計画の仕方、学習指導案の作成方法、教材の作成方法について体験的に理解し、模擬授業を実践し、相互に形成的な評価を実践し、次の指導実践に活かす。
	後期	①「道徳の指導法」を履修し、教育課程における道徳の位置づけ、道徳教育の方法を学ぶとともに、「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」の履修により、特別活動の意義を理解し、具体的な指導の方法を身に付ける。 ②介護等体験を通して、支援の必要性と基礎的技術およびコミュニケーションスキルを身につける。 ③専門科目の履修によって教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。 ④「英語科教育法Ⅳ」を履修し、学習指導の方法、評価の方法について体験的に理解し、模擬授業を実践し、相互に形成的な評価を実践し、次の指導実践に活かす。 ⑤「英語英文学演習」の中で行われる卒論作成の為の研究を通して、英語、英文学、英語教育、コミュニケーション学に関連する関心を高め、必要な知識や技術を習得し英語科の教員になる為に活用する。
4年次	前期	①「教育実習事前事後指導」で2年次、3年次で習得したまとめを行う。 ②教育実習では、実際の教育現場に身を置き、学校経営、教育の実際を学校全体の活動を経験するとともに、教育現場の教員から指導を受け、より実践的に課題に取り組むことができるようになる。生徒とのコミュニケーション等について理解するとともに「指導法」についての学びを深める。 ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。
	後期	①これまでの学習のまとめを「教職実践演習」で行い、卒業後すぐに実践的教員となれるよう学習を進める。 ②「教育実習事前事後指導」で、教育実習の振り返りを行い、教育者としての資質向上につとめる。自らの課題の解決方法を見出し、そのために必要な知識を自ら修得できるようにする。 ③専門科目の履修を通して教科の内容についての理解を深め高等学校教員としての知識の習得に努める。 ④卒業研究を通して卒業論文を作成することにより、「自らの課題の解決方法を見出し、そのために必要な知識を自ら修得できるようにする」ことで、高等学校教員になるという自己実現に向けて、その資質と専門性を高める。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

②具体的な履修カリキュラム

教科及び教職に関する科目（教科及び教科の指導法に関する科目に限る。）（1単位は1間等1単位）	教育職員免許法施行規則に定める科	最低修得	
--	------------------	------	--

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数 (本学の最低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目					備考
	科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数 中 高	担当教員		
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	○言語学概論 英語の歴史 ことばの音と形態 ○応用言語学	1後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2	田口 茂樹 児玉 一宏 上野 裕子 上野 裕子		
			英語文学	○英米文学概論 英文学の歴史 米文学の歴史 専門講読 (英文学) 専門講読 (米文学)	1後 2・3・4前 2・3・4前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	大川 淳 Lytle De Souza Lytle De Souza 大川 淳 Lytle De Souza 大川 淳		
			英語コミュニケーション	○Academic English I ○Academic English II ○Academic English III Communication Skills I Communication Skills II Persuasive Communication Public Speaking Argumentation and Debate	1前 1後 2前 3前 3後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2	Nikan Sadehvandi Dan King Nikan Sadehvandi Dan King Steve Harder Dan King Thomas Nishikawa Thomas Nishikawa Isobel Hook Lytle De Souza Isobel Hook		
			異文化理解	△異文化間コミュニケーション イギリスの社会と文化 Comparative Culture Global Literature Workshop △Intercultural Communication and Acculturation	2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2 2 2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	守崎 誠一 吉田 朱美 York Weatherford Lytle De Souza Lytle De Souza	△から1科目選択必修	
			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
			各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	○英語科教育法 I ○英語科教育法 II ○英語科教育法 III ○英語科教育法 IV	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	喜多 容子 喜多 容子 東郷 多津 喜多 容子 東郷 多津		

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

(中等教職課程共通)
教科及び教職に関する科目(教科及び教科の指導法に関する科目を除く。)

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数 (本学の最低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目						備考	
	科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数		共通 開設	担当教員		
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10(12)	○教育原論 教育史	1・2前 2後	2 2	2 2	初等 初等	田中 裕喜	1科目選択必修	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職論	2前	2	2	初等	河佐 英俊		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学 教育経営論	2前 2後	2 2	2 2	初等 初等	原 清治 河佐 英俊		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2前	2	2	初等	高井 直美		
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育	2後	2	2	初等	太田 容次		
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程論	2・3前	2	2	初等	田中 裕喜		
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳の理論及び指導法	中10(10) 高8(8)	○道徳の指導法	2・3前	2	—		初等
	総合的な学習の時間の指導法	○特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3後	2		2	初等	河佐 英俊 大西 慎也			
	特別活動の指導法	△教育の方法及び技術	3後	2		2	初等	東郷 多津			
	教育の方法及び技術	△教育方法学	3前	1		1	初等	神月 紀輔			
	情報通信技術を活用した教育の方法及び技術	教育評価	3前	2		2	初等	神月 紀輔			
	生徒指導の理論及び方法	○ICT活用教育	3前	1		1	初等	神月 紀輔			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	○生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3前	2		2		網谷 綾香			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○教育相談の理論及び方法	2・3前	2		2	初等	網谷 綾香			
	教育実践に関する科目	教育実習	中5(5) 高3(3)	○中等教育実習事前事後指導	4通	1	1		河野 有時 東郷 多津 加藤 佐千子 喜多 容子 神月 紀輔 田中 裕喜 江川 正一 太田 容次 河野 有時 東郷 多津 加藤 佐千子 喜多 容子	中学校必修	
				○中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ	4通 4通	2 2	2 2				
				学校体験活動							
		教職実践演習	2(2)	○教職実践演習	4後	2	2	初等	河野 有時 東郷 多津 加藤 佐千子 喜多 容子 神月 紀輔 田中 裕喜		
	大学が独自に設定する科目		中4(2) 高12(10)	道徳の指導法 介護等体験 暮らしと電気・エネルギー 環境教育 国際理解教育	2・3前 2・3通 1 3 4	— 1 2 — —	2 1 2 2 2	初等	河佐 英俊 矢島 雅子 藪 哲郎 佐藤 真太郎 渡辺 智美	高等学校免許のみ 中学校免許必修	
				(大学が独自に設定する科目以外の科目の余剰単位)							最低修得単位数（中55単位、高47単位）を超えて修得した単位数

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（全学共通）

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得 単位数	左の科目区分に対応する本学開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
日本国憲法	2	○憲法と人権	2	横山 真紀	
体育	2	体育講義	1	高田 佳孝	2単位選択必修
		体育実技	1	高田 佳孝	
		健康スポーツ演習	2		
外国語コミュニケーション	2	日常の英会話	1	Isobel Hook Nikan Sadehvandi	2単位選択必修
		旅行の英会話	1	Charles Paul Dan King	
		留学の英会話	1	Charles Paul	
		おもてなしの英会話	1	Thomas Nishikawa Dan King	
		ビジネス英会話	1	Nikan Sadehvandi Thomas Nishikawa	
		英語実践（4技能）Ⅰ	1	Charles Paul Kelada	
		英語実践（4技能）Ⅱ	1	Isobel Hook Nikan Sadehvandi	
		Communication Skills Ⅰ	1	Dan King	
		Communication Skills Ⅱ	1	Thomas Nishikawa	
		Public Speaking	2	Thomas Nishikawa	
		Persuasive Communication	2	Lyle De Souza	
		Argumentation and Debate	2	Isobel Hook Isobel Hook	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	2	AIとデータサイエンス入門	2	北村 美穂子 金光 安芸子	
情報機器の操作	2	情報演習Ⅰa	1	吉田 智子	2単位選択必修
		情報演習Ⅰb	1	大谷 俊郎	
		情報演習Ⅱ	1	吉田 智子	
		情報処理	2	大谷 俊郎 伊藤 泰子 伊藤 泰子	

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

5. 免許状取得までの各年次の主なスケジュール

【英語英文学科・国際日本文化学科・生活環境学科・社会情報学環】

年次	主要スケジュール（詳細は掲示板等で確認すること）		教職に関する科目等の標準的な履修年次
1	履修登録時	1年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。	憲法と人権、体育講義、体育実技、健康スポーツ演習、情報演習Ⅰa、情報演習Ⅰb、英語実践（4技能）Ⅰ、英語実践（4技能）Ⅱ 教育原理（家庭科） 暮らしと電気・エネルギー
	12月	教職課程説明会	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教育実習予備調査 履修指導	
2	履修登録時	2年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 取得を希望する免許状の「資格申請」をする（UNIPA）。	教育史、教育経営論、教職論、教育心理学、教育社会学、特別支援教育、情報演習Ⅱ、情報処理 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ 家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ 日常の英会話、旅行の英会話、留学の英会話、おもてなしの英会話、ビジネス英会話、AIとデータサイエンス入門 （英語科） Persuasive Communication、 Public Speaking、Argumentation and Debate
	10月頃	介護等体験説明会	
	11月頃	教育実習報告会	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教育実習依頼指導(1) 誓約書提出・実習依頼校申請 教職課程特別講座（履修指導を含む） 介護等体験事前指導開始	
3	履修登録時	3年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 教育実習要件を確認し、前提科目を履修する。 取得を希望する免許状の「資格申請」を確認する（UNIPA）。	教育課程論、道徳の指導法、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、生徒指導・進路指導の理論及び方法、教育相談の理論及び方法 英語科教育法Ⅲ、英語科教育法Ⅳ 国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ 家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ 情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ 教育評価、ICT活用教育 教育の方法及び技術、教育方法学、介護等体験 （英語科） Communication SkillsⅠ、Communication SkillsⅡ （情報科） 環境教育
	4月頃	教育実習依頼指導(2)	
	5～2月頃	介護等体験7日間	
	11月頃	教育実習報告会	
	12月頃	介護等体験事後指導 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教職課程特別講座（履修指導を含む）	
4	履修登録時	4年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 必要単位の不足はないか綿密に検討し直す。 取得を希望する免許状の「資格申請」を確認する（UNIPA）。	中等教育実習事前事後指導、中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ （情報科） 国際理解教育 教職実践演習
	4月	教育実習事前指導開始 教育実習の確定登録 教育実習費の納入	
	4～9月	実習校への通学時間などを調べ、実習校と打合せて実習の準備をする。	
	5～10月	教育実習 教育実習終了後履修カルテ入力	
	11月頃	教育実習事後指導 教育実習報告会	
	12月頃	免許状授与一括申請手続 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月頃	教員採用状況調査	
	3月	卒業式後、免許状交付	

教員採用試験のスケジュールについては、各都道府県・政令指定都市及び私立学校により異なるので、各自で確認すること。